

# 2015 年度 大阪大学 前期 英語

## I

出題範囲	英文和訳
難易度	★★★☆☆
所要時間	25 分
傾向と対策	構造自体は比較的簡単なもので、訳出が難しい箇所もあったものの全体としてはさほど難易度は高くないため確実に得点したい。ただし、問題の指示を正確に理解し、できるだけ指示内容を明示することで日本語として通用する解答を作る必要がある。

### 本文訳

(A)

産業革命が始まってから地球上で生産された総エネルギーの半分が最近の 20 年で消費されてきた。偏ったかたちで、それは先進国にいる我々によって消費された。我々はきわめて特権的な存在であるのだ。

今日、タンザニアの平均的な国民 1 人が、ヨーロッパ人 1 人が 2.5 日毎、あるいはアメリカ人 1 人が 28 時間毎に楽々と放出するのと同じ量の炭素を排出するには約 1 年かかる。要するに、我々がいまのように生活できるのは、我々が地球のほかの多くの住民の何百倍もの速度で資源を使っているからだ。

(B)

ユーモアは、我々を楽しませる状況や人物、言論や文章や画像を説明するのに幅広く使われる用語だ。身体的なレベルでは、ユーモアは刺激に対する無意識な反応、すなわち笑いに過ぎない。礼儀正しくしなければならぬと感じるような社交的な場面では我々はこれを真似ることができるが、本物の笑いというものは自然に我々の身に起こる。笑いは我々には制御できないのだ。それは運動神経の反応かもしれないが、笑いが結果的に生じるような経験を我々は探し求め、そして仮に身体的反応がなければ我々は楽しくなかったと感じるのだ。

### 解答例

本文訳参照

### 解説

(A)

傍線部とそれ以前では段落が変わっているが、最初の段落は単なる導入となっているので、大まかな内容を取ればよい。

・ Today it takes the average citizen of Tanzania almost a year to produce the same volume of carbon emissions as is effortlessly generated every two and a half days by a European, or every twenty-eight hours by an American.

少々長めの文章だが文構造自体はさほど難しいものではないので、見た目にひるまず取り組んでもらいたい。この文は大きく分けて 2 つのポイントがある。

まず it takes O A to V 「O が V するのに A (時間) がかかる」という構文である。このことを踏まえて文をもう一度見てみると、

O = the average citizen of Tanzania, A = almost a year, to V = to produce 以下  
という構造が見えてくる。

次に to produce 以下の内容を細かく見ていくが、ここで 2 つ目のポイント、関係詞 as を用いた the same B as V 「V するのと同じくらいの B」という語法が登場する。ここでの先行詞は volume である。as を手掛かりに分析すると、

B = volume of carbon emissions, V = is 以下  
という構造が見える。

ここまでで大枠は完成したので、あとは is 以下の構造を確認すればよい。ここでは every two ~ European と every twenty-eight ~ American が等位接続詞 or によって結ばれた受動態の構造ができています。

・ We are, in short, able to live as we do because we use resources at hundreds of times the rate of most of the planet's other citizens.

この文は特に構造的に難解な部分はないため、語彙的な面について触れておく。

ここでの as は先ほどの関係詞 as とは異なり、様態を表す接続詞 as であり、「~のように」と訳出する。また、hundreds of times の処理についてだが、これは倍数表現の 1 つであり、「何百倍の」という意味になる。次に rate について考える。rate の意味を「割合」とだけで覚えている人も多いかもしれないが、rate には「速度」という意味もあり、前置詞 at とともに用いて「~の速度で」となる。そのため、上の hundreds of と合わせると「何百倍の速度で」となる。実際、下線部において与えられた数値を計算してみると、 $365 \div 2.5 = 146$ 、 $365 \times 24 \div 28 = 312.85 \dots$  となり、確かに「何百倍」といえる。

以上のことを踏まえて訳を作ると、解答のようになる。

(B)

(A)と同じように、最初の文は導入なので大まかな内容をとれればよい。

・ At the physical level, it is no more than an involuntary response to a stimulus — laughter.

この文に関しては特に問題はないであろう。it が指すのは直前の humor であることは容易にわかるであろう。

最後の laughter が「—」によって an involuntary response to a stimulus と同格になっていることと, no more than~の意味「ただの~でしかない」がわかれば容易に解答できる。

・ Although we can imitate this in social contexts where we feel an obligation to be polite, genuine laughter comes upon us spontaneously; it is beyond our control.

これも単純な構造で, Although ~ polite まだが従属節, genuine 以下が主節である。

関係副詞 where が social contexts を先行詞としていること, an obligation to V 「V する義務」という語の意味がわかれば容易に解答を導ける。なお, 最後の it は laughter を表している。また, it is beyond our control について, our control 「我々による制御」を beyond 「越えて」, となるので, 「我々の制御を越える」, すなわち「我々には制御できない」と訳出することができる。

以上のことを踏まえて訳を作ると, 解答ようになる。下線部以降の文も読んで理解することで, 自分の下線部訳との文脈のつながりを確認するのがよい。

#### 表現

disproportionately 「不釣り合いなことに」

privileged 「特権的な」

in short 「要するに」

term 「用語」: ほかに「条件」「学期」といった意味があるので注意

(大西功泰, 日笠航希)

## 2015 年度 大阪大学 前期 英語

### II

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	30分
傾向と対策	少し長めの文章で扱っている内容が抽象的なものであるが、例示が多く比較的わかりやすいため、さほど難しい問いではなかった。設問の指示に正確にしたがい解答したい。

#### 本文訳

成人期に到達すると、我々には人生を振り返り、勝利や後悔を回想し、伝えたい物語を考える機会がある。そのような物語、つまり「人生の物語」——その内容と語り方——は重要だ。過去数十年間で、我々が自分の人生について書く物語がどのように、我々の自己についての考えを形成し、日々の行動に影響を及ぼし、幸福に影響するのかを心理学者はずっと調べてきた。一貫した自叙伝をもつことで過去をより受け入れられるものと感じ、未来について感じる恐怖が軽減される。言い換えると、どのようにしていまの自分になったかや、未来がどのように<sup>(i)</sup>展開するであろうかについて——例えば、人生の歴史にある種の秩序性と意味を与えるような——の人生の物語を構成することができるのなら、我々はより幸福になるのだ。<sup>(A)</sup>例えば、妹が重い病気にかかったとき、もっと多くの時間を妹と遊んで過ごさなかったことを後悔するのではなく、我々は、彼女の癌との闘病がいかにしてその後の人生を人助けに捧げるように駆り立てたのかを理解するようになる。人生をただのあっという間に過ぎてしまう断片的な瞬間の集まり以上のものとして理解し、それらの瞬間を重大な旅の決定的な部分へと変えることができるのなら、我々はより大きな幸福と人生の目的を経験するのだ。未確定の未来を<sup>(ii)</sup>予測可能な出来事の連続へと変えることができるのなら、我々はより落ち着くことができるのだ。

1957年のイングマール・ペレイマンの映画、『野いちご』において、一見すると優しい年配のスウェーデン人内科医である主人公が、過去の後悔と自身に<sup>(iii)</sup>差し迫る死のイメージに取りつかれている。人生を再評価することを余儀なくされ、彼は旅に出る。<sup>(b)</sup>それは文字通りの旅でもあり、心の旅でもある。その旅の間、彼は人生における鍵となるすべての転換点を思い出させてくれる人々や場所を訪ねる。他人からは高く評価されているが実のところ狭量な母親や、海辺で過ごした子ども時代、愛していたが彼ではなく彼の弟と結婚した恋人、そしてひどく喧嘩の多い結婚。これらの記憶の中の自分や、自分の人生で関わった人々の中の自分を認識し、彼は徐々に自分自身を受け入れるということを理解し、人生の中に以前は持ち合わせていなかった一貫性や意味を吹き込むことができる。

スウェーデン人内科医は我々のだれもが目指すものを成し遂げる。研究者たちはそれを<sup>(d)</sup>自叙伝の一貫性とよんでいる。それを成し遂げるには精神的な時間旅行が必要かもしれない。例えば、ごく幼い頃まで戻り、そこで

伴侶や祖父母、労働者や友人としての現在の自分の失敗や成功の種を見つけるのだ。伝えられるところによると、ベルイマンはスウェーデンを車で長期間旅行しているときに『野いちご』の案を得たそうだ。生まれた町であり子ども時代を過ごした町でもあるウプサラに足を止め、祖母の古い家を車で通り過ぎたあと、彼はドアを開けて子ども時代へと歩いて戻ることがどのようなものであろうかと想像した。我々がもし人生のさまざまな時期でそれをできたらどうだろうか。

研究が示すところによると、単に過去について書くだけで、人々は人生の重大な出来事の意味や秩序を理解することができ、それゆえこれらの出来事<sup>(iv)</sup>と折り合いをつけ、自分の後悔を甘んじて受け入れる機会が与えられるそうだ。それを書くことが、我々と過去の人々や場所、活動とを再び結びつける手助けをし、我々に自叙伝的一貫性の感覚を与えてくれる。それを書くことは我々の自叙伝的事実（「私は虐待されていた」、「私はペンシルヴァニアに住んでいた」などの事実）を説明するだけでなく、経験の特定の記憶や側面（すなわち、大切にしていた思い出や家族の象徴的な伝統）を、我々が理解できるように選んで再構築することで、事実を超越することを含むのだ。そうすることで、より高潔に、あるいはより賢く行動できていたかもしれないのにと、<sup>(v)</sup>くよくよ考えるのではなく、過去の人生経験や出来事を活気づかせ、人生に意味を加えるのであろう。

### 解説

(1) 正解は (A)ニ (B)イ (C)ハ (D)ロ

問題を解く前にまず選択肢を確認しておく、(イ)～(へ)に共通するのはおもに前置詞として用いられている語であるということである。

(A)

(A)の前後を確認すると、直前に in other words 「言い換えると」という表現が出てきている。これはすなわち、これ以後の文内容は前文と同じ内容になっていることを示している。前文の内容を見てみると、どうやら前文 Having ~ autobiography までの内容がうしろの文 if 節に対応しそうだ。そこで前文 make us 以下の文とうしろの文 if 節までの内容が対応するような better (A)の組み合わせを選択肢から考えると、well off 「裕福である、豊かである」という表現が思いつくだらう。問われているのはこの表現の知識であり、well の比較級として better が用いられているのだ。ほかの選択肢をとると文意がうまく通らないため解答は(二)とわかる。ここでは off は副詞として用いられている。

(B)

(B)の前後を確認すると、interpret という単語が目に入るであろう。この単語と選択肢をよく見ると、interpret A as B 「A を B と理解する」という表現が見えてくる。実際、as を入れて文を解釈してみても、「人生をただのあっという間に過ぎてしまう断片的な瞬間の集まり以上のものとして理解することができ、その瞬間を重大な旅の決定的な部分へと変えることができるのなら、我々はより大きな幸福と人生の目的を経験するのだ。」となり意味が通るうえ、前後のつながりも問題はない。よって解答は(イ)となる。

(C)

(C)の解答を考えるうえでも前後の単語に注目する。すると(C)の直前に aim という単語が目に入る。文構造から判断するにこの aim は動詞であるが、動詞 aim が目的語をとるときに用いることのできる前置詞は at, for のいずれかのみである。選択肢中に at は存在しないため、解答は (ハ) の for となる。ほかの選択肢を用いても意味は通らない。

(D)

(D)を含む文を訳出してみると、「それを書くことは我々の自叙伝的事実（「私は虐待されていた」、「私はペンシルヴァニアに住んでいた」などの事実）を説明するだけでなく、経験の特定の記憶や側面（すなわち、大切にしていた思い出や家族の象徴的な伝統）を、我々が理解できるように、選んで再構築することで事実を(D)することを含むのだ。」ということになる。ここで残る選択肢を見てみると、go を用いて go beyond 「超越する」、go on 「続ける、起こる」、go to A 「A に行く、A まで進む」という3つの熟語表現ができるが、このうち訳に照らし合わせてみて意味が通るのは go beyond のみである。よって答えは (ロ) の beyond となる。

(2) 正解は (i)ロ (ii)ロ (iii)イ (iv)イ (v)ニ

(i)

**選択肢訳**

- (イ) : ~を遅れさせる
- (ロ) : 展開する, 発展する
- (ハ) : 終了する
- (ニ) : 成功する

unfold は「展開する」という意味であるので、解答は (ロ) の develop 「展開する」となる。なお、unfold の意味を知っていなくとも、否定を表す接頭辞 un + fold 「折りたたむ」という構造から意味を推測するのは困難ではないだろう。

(ii)

**選択肢訳**

- (イ) : 楽しめる
- (ロ) : ありそうな, 起こりそうな
- (ハ) : 重大な
- (ニ) : 理解できる

predictable は「予測可能な」という意味である。一見するとどれも適さないように思えるが、predictable が「今後何が起こるかを予測できる」というニュアンスを含むため、選択肢のうちで最も適切なものは (ロ) の likely となる。

(iii)

**選択肢訳**

- (イ) : 近づいてくる
- (ロ) : 最後の, 結果的に起こる
- (ハ) : 痛々しい
- (ニ) : 突然の

impending は「差し迫った」という意味であるので、最も適するのは (イ) の approaching である。この単語は難度が高かったかもしれないが、この機会にぜひ覚えてほしい。

ところで、もし impending の意味を知らなかった場合にも、下線部前後を訳し「過去の後悔や彼自身の〇〇な死」として、〇〇に選択肢の訳を 1 つずつ当てはめてみて文意が通るかどうかを確かめれば解答を導くことができる。本文を振り返ると、ここでの「彼」とはスウェーデン人内科医である主人公のことで、年配であると書かれている。このことから考えられるのは、「〇〇な死」とは (ロ) 「結果的に起こる」ものでもなく、事故や病気などによる (ハ) 「痛々しい」ものでも (ニ) 「突然の」ものでもないということである。よって解答は上記と同様に (イ) となるが、やはりまだ推測の域を出ない。どのような単語が出てもしっかり対応できるよう語彙力を強化してほしい。

(iv)

**選択肢訳**

- (イ) : ~を受け入れる
- (ロ) : ~を避ける
- (ハ) : 言葉で表現する
- (ニ) : 知るようになる

come to terms with A は頻出の熟語表現で、「A と折り合いをつける, 受容する」という意味である。よって最も適するのは (イ) の accept である。なお、come to terms with の意味を知っていなくとも、本文の下線部 (iv) のうしろにある reconcile themselves to their regrets 「後悔と和解する」という表現とほぼ同じ意味を表しているとわかれば意味の推測が可能であろう。

(v)

**選択肢訳**

- (イ) : ~とうまくやっていく
- (ロ) : ~に慣れている
- (ハ) : ~を最大限に利用する
- (ニ) : ~について考えすぎる

dwelling on A の意味は「A にこだわる」である。こだわるということは、何かのことをずっと考えているということなので、最も適するのは(ニ)の thinking too much about である。(iii)同様、dwell on の意味がわからなかった場合にも、前後の文脈から意味を推測することができる。下線部を含む文を見ると、we could have acted~と仮定法過去完了の帰結節が用いられている。このことから、実際には高潔かつ賢くは行動できなかったことが読み取れ、後悔していることがわかる。このニュアンスを含んだ表現が(ニ)だけであることから答えは導かれる。しかし、これについても(iii)同様にやはりまだ推測の域を出ない。そのため語彙力の強化が望まれる。

(3)

**解答例**

重病の妹ともっとともに過ごせばよかったと後悔する状態から、妹の癌との闘いが、他人を助けるためにその後の人生を捧げるように自分を駆り立てたと理解する状態へ変化した。

下線部の訳に沿って回答を構成していけばよい。まず前半の状態についてだが、instead という単語に注目する。この単語は「~でなくて、~」という文構造を導くので、この単語によって構成される句が前半、それ以後の文が後半の状態を表しているとわかる。あとは下線部を訳し、指定語数以内に収まるようにまとめれば解答のようになる。

(4) **正解は (B)ハ (D)ハ**

(B)

**選択肢訳**

- (イ) : 彼に過去の成功と失敗とを思い出させる旅
- (ロ) : 過去の場所だけでなく人も再び訪ねる旅
- (ハ) : 身体的・精神的に行われる旅
- (ニ) : 実際の場所、架空の場所の両方に連れて行かれる旅

まず下線部を直訳すると、「文字通りで比喩的な旅」であるが、「文字通りの旅」というのはすなわち、実際に足を動かして人や場所を訪れる旅のことである。また「比喩的な旅」とはいわゆる記憶の旅のことで、実際に旅



をすることで生じる回想や追憶のことである。

以上のことを踏まえて下線部を解釈すると、(ハ)の身体的・精神的に行われる旅が当てはまる。

(D)

**選択肢訳**

(イ)：人生におけるあつという間に過ぎてしまう断片的瞬間

(ロ)：人生において鍵となる転換点の連続

(ハ)：過去の人生の中で見つける秩序性と意味

(ニ)：過去の人生における矛盾した要素を認識すること

下線部を訳すと、「自叙伝的一貫性」であるが、下線部の前を見てみると自叙伝的一貫性とは我々皆が目標とすべき何かのことである。ベルイマンの映画の中のスウェーデン内科医はそれを手に入れたのだが、第2段落とのつながりを見るとそれは文字通りで比喩的な旅を通して手に入れたものであることがわかる。第2段落の最終文を見ると、旅を通して彼が得たものとは以前はもっていなかった一貫性、すなわち秩序性と意味であり、それが自叙伝的一貫性なのだ。よって解答は(ハ)の、ある人が過去の人生の中で見つける秩序性と意味となる。

(5) **正解は his life**

下線部の前後を確認すると、「it が以前もっていなかった一貫性と意味を人生に吹き込む」という文があるが、これより it は「一貫性と意味もっていなかったもの」と対応することとなる。よって解答は his life となる。

(6) **正解はハ、ホ**

それぞれの選択肢の内容を確認していく。

(イ) 本文第3段落3文目を見ると、「報じられるところによると、ベルイマンはスウェーデンを車で長期間旅行しているときに『野いちご』の案を得たようだ。」と書いてある。これより、自動車旅行中にベルイマンが得たものは、自分の幼少期の体験の意義ではなく映画『野いちご』の着想であるということがわかるので不適。

(ロ) 本文第2段落2文目には、映画『野いちご』の主人公が振り返ったのは鍵となる過去の転換点であり、その例として「他人からは高く評価されているが実のところ狭量な母親や、海岸の上に残る子ども時代、愛していたが彼ではなく彼の弟と結婚した恋人、そしてひどく喧嘩の多い結婚」などが挙げられているが、これらはどれも幸福な出来事とはいえないため不適。

(ハ) 本文第1段落4文目を見ると、「筋の通った自叙伝をもつことで過去をより満足なものと感じ、未来について感じる恐怖が軽減される。」とあり、過去の人生の出来事を筋道立てて構成すれば未来により影響を与えることができるということが述べられている。よってこの選択肢は正しい。

- (二) 本文最終段落第2段落3文目に、「それを書くことは、我々の自叙伝的事実を説明するだけでなく、我々に理解できる方法で我々の経験の特定の記憶や側面を選んで再構築することで事実を超越することを含む」とあり、数多く正確に書くのではなく事実以上のことを書くことが重要とされているため不適。
- (ホ) 本文最終段落最終文に注目すると、「より高潔により賢く行動できていたであろうすべての方法をくよくよ考えるのではなく、我々は過去の人生経験や出来事を活気づかせ、人生に意味を加えるのであろう。」とあるが、この前半部分が「過去の失敗の後悔」にあたり、後半部分が「そのような出来事と現在の自分との関係」にあたり、それらが重要であると本文全体を通して述べられている。よってこの選択肢は正しい。
- (ヘ) 本文全体を通して散々述べられてきた、過去の体験と現在・未来の出来事との相関を考えると、過去の失敗をも受け入れ肯定的に構築していくことが重要であるため、この選択肢は不適。

### 表現

triumph 「勝利」

coherent 「一貫した」

devote A to B 「A を B に捧げる」

fleeting 「つかの間の」

sweetheart 「恋人」

infuse A 「A を吹き込む」

reconcile A 「A を和解させる」

biographical 「伝記の」

mistreat A 「A を虐待する」

virtuously 「高潔に」

come alive A 「A を活気づける」

(大西功泰, 日笠航希)

## 2015 年度 大阪大学 前期 英語

### III

出題範囲	自由英作文
難易度	★★★★☆
所要時間	15分
傾向と対策	70語程度という標準的な記述量であり、求められている内容も頻出のものであったため比較的書きやすいのではないと思われる。細かな文法のミスをなくして確実に得点したい。

#### 解答例

(例1) I think that the world is going to face garbage problems more seriously. Today, as technology develops, more and more things are made and thrown away immediately. I believe that the best way to cope with the problems is to consider whether you really need those things before you buy them and to think twice before you throw things away. Then, the amount of garbage will decrease. (66 words)

訳：世界はごみ問題にさらに深刻に直面していくと思う。今日、技術の発展に伴い、ますます多くのものが作られて、すぐに捨てられていく。その問題に対処する最善の方法は、買う前に本当に必要なのかを考え、捨てる前に考え直すことだと思う。そうすればごみの量は減少するだろう。

(例2) A problem which our society is going to face is income gaps. The gaps are widening more and more. To solve the problem, the government should provide a subsidy for those who have lower income and who can no longer work because of illness or something else, or work on employers to help them financially. It's almost impossible to completely eliminate the gaps, but the government should try its best to make the gaps narrower. (75 words)

訳：我々の社会が直面しようとしている問題は所得格差である。その格差はますます拡大している。この問題を解決するために、政府は低所得層や、病気やその他の原因でもはや働くことができない人に補助金を支給したり、雇用主に金銭面でそのような人を援助するよう働きかけたりすべきだ。格差を完全に是正することはほとんどできないが、その格差をより小さくするために最善を尽くすべきだ。

#### 解説

社会問題の具体的例示・説明と、その対処法の提案とを同時に記述することが求められている設問である。自由英作文は内容如何よりも文法を重視されることが多いため、無理に高尚な内容を記述する必要はないが、設問の指示に従うことは必須である。例えば、この設問に対して対処法を述べず問題の例示だけに終始してしまうよ

うな解答は、0点ということはないにしても大幅な減点は避けられないであろう。それがたとえ文法的に完璧なものであったとしてもである。なお、同じく設問の指示にある語数指定だが、～語程度とある場合～語から±5語の幅で記述するのが望ましいと思われる。今回の場合70語程度とあるため、解答は65語から75語の範囲で記述ということになる。自由英作文はこのような指示を守らなければいけないため、実のところは“不自由”英作文ともいえるので注意したい。

さて、設問そのものの解説に移るが、解答にあたってはまず社会問題を思いつかなければならない。「これからの社会」とあるから、これから起きる問題や、深刻化していく問題を取り扱ったほうがよい。その「社会と問題の変化」に触れるのが無難であろう。とはいえ先述の通り、難しい内容である必要はないため、現実の問題であれば許容されると思われる。ここではごみ問題と格差問題を取り上げたが、ほかに食糧問題や地球温暖化問題、人口問題などを取り上げてよいだろう。解答の書き方について、本問で求められているのは例示とその対処法であるが、それだけで70語を記述することはいささか難しいかもしれない。そのため、「つなぎ」として、取り上げた問題の説明や問題点の記述、対処法を实践することでどのように変わるかなどを書いてもよいかもしれない。

(大西功泰, 日笠航希)

## 2015 年度 大阪大学 前期 英語

### IV

出題範囲	和文英訳
難易度	★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	文章の量も多くはなく、難しい語彙を要求されるものでもなかったため、難しい設問ではなかった。日本語をどれだけ訳しやすい形に変えられるかで差がつくので、英語の能力だけでなく日本語の言い換え能力もしっかりと高めて臨んでほしい。

#### 解答例

(A)

When you see a small ant crawling in front of you, you may sometimes kill it unintentionally. But at that time, you can't kill ants so unthoughtfully if you think that it has a history of several billion years and it is because of such a long history that it is here.

(B)

(イ)

Concerning works of art, there are two types of people, creators and appreciators. Then why do creators create them? And why do appreciators want and appreciate them? Art works always have something beyond the understanding not only of appreciators but also of creators. Creators create by themselves what is a little bit beyond their own understanding. Moreover, it is not an extra unnecessary thing and it seems that the power of art and life are living in the very part.

(ロ)

However, instead of stopping thinking by just accepting the idea, you should take one step further and try to think what on earth "past events" actually are, and you will notice that you cannot find it out so easily.

#### 解説

(A)

・「眼の前を小さなアリがはっていると、」

この日本語文だけを見ると、アリを主語として When a small ant is crawling in front of you や When there is a small ant crawling in front of you などと書くこともできるが、続く文の主体が you であり、主語を統一したほうがよいと考え、文全体を「眼の前で小さなアリがはっているのを見ると」と読み替えてこのように訳出した。

・「何気なくつぶすこともあるのではないのでしょうか。」

ここでの「何気なく」は「何も考えずに」「無意識に」と読み替え unintentionally としたが、「理由がない」というふう読み替えて for no (particular) reason のように書いてもよい。また、「つぶす」については直訳で crush としてもよいが、「つぶす」ということはつまるところ「殺す」ということであるので kill を用いるほうが無難であろう。「～ではないのでしょうか」についてだが、単に疑問文にするのではなく、「ときどきすることがあるかもしれない」というふう読み替え, you may / might sometimes~と書ける。

・「でもその時、このアリの中に数十億年という時間がある、それだけの時間があって、このアリはここにいるのだと思ったら、」

「でもその時」についてはそのまま訳してよいが、But at the time とするのは誤りである。At the time という表現は「当時は」という意味をもっているため、この場合は that time, that moment などとしなければならない。「このアリの中に数十億年という時間がある」の部分は直訳すると There are several billion years in this ant.となるが、これでは意味が通らない。そこで文章全体を振り返ると、ここでの時間とは歴史のことをいっているのであり、この文は「アリには数十億年の歴史がある」ということを伝えようとしているのだとわかる。これを訳すと This ant has a history of several billion years となる。「それだけの時間があって、このアリはここにいるのだ」の部分についても同じように文全体の内容から意味を解釈すると、「それだけの長い歴史を経てアリは現在の姿でここに存在している」と読み替えられるので、it is because of such a long history that it is here となる。なお、ここでは強調構文の形を用いて表現したが、用いなくてもよい。

・「そう簡単にはつぶせなくなります。」

この文章は比較的簡単である。ここでの「簡単に」という語はそのままの意味ではなく、「何も考えずに」「軽率に」という意味のニュアンスがあるため、副詞 unthoughtfully を用いて you can't unthoughtfully kill them となる。

以上のことから文章全体を構成すると、解答例のようになる。

なお、ここでは「このアリの中に数十億年という時間がある」の部分と「それだけの時間があって、このアリはここにいるのだ」の部分とを並列関係とみなして訳出したが、同格関係にあると考えて、and の代わりに、that is, などを挿入してもよい。

(B)

(イ)

・「芸術作品には作り手と受け手がいる。」

直訳すると There are creators and appreciators in the art works.となるが、これではまったく意味が通らない。解答例では「芸術作品に関しては、作り手と受け手という2種類の人間がいる」というふう読み替えて訳

出した。もしくは、「芸術作品は作り手と受け手の両方を必要とする」というふうに解釈し、Art works require both creators and appreciators.としてよい。

ところで、「芸術作品を受けとる」ということの解釈であるが、「受けとる」という日本語から accept や receive などの単語を思いつくかもしれない。しかしここで求められている意味とは、accept のように「(招待などを)引き受ける」、receive のように「(贈り物などを)受け取る、受理する」といったものではなく、芸術作品の価値を味わい、鑑賞するという意味である。このことから appreciate「～を鑑賞する」「(物などの)よさがわかる」を使うことが最適である。ちなみに、view や listen を使って表現することもできるのだが、前者は絵画や彫刻など目で見えるもの、後者は音楽など耳で感じることのできるものであるため、どちらか一方だけでは「受け手」全体の意味を表現することができず、仮に両方を用いたとしても複雑で長ったらしい文になってしまうので避けたいところである。そういう意味でも、芸術作品全般について使うことのできる appreciate が最適である。

・「では、なぜ作るのだろう。」

ここでは直訳すればよいが、主語を補う必要がある。当たり前ではあるが、「作る」のは「作り手」であるから、主語を creators として解答例のように訳出できる。

・「そして、なぜそれを求めて受けとるのだろう。」

先ほどの文と同じように、主語 appreciators を補って訳せばよい。ここでの「それ」とは芸術作品のことであるので、代名詞は them となる。

・「芸術作品は、必ずどこか理解を超えたものをもっている。受け手にとってだけでなく、作り手にとってもそうだ。」

この文も直訳でよいであろう。ここでは2文をまとめて訳出したほうがわかりやすくなる。「必ず」の表現であるが、これは always などの副詞を用いて「芸術作品はいつも～」のように表現してもよいし、all などを用いて「すべての芸術作品は～」のように表現してもよい。解答例では前者を用いた。「どこか理解を超えたもの」の表現についてだが、直訳して something beyond the understanding のようにしてもよいし、「我々には理解できないもの」と読み替えて、something incomprehensible や something which cannot be understood としてもよい。後半についてだが、「～だけでなく～」という表現は頻出であり、not only ~ but also~を用いて表現すればよい。

・「作り手は、自分の理解をはみ出したものを自ら作り出してしまう。」

「自分の理解をはみ出したもの」についてだが、先ほどの文と同じような表現を使い、what is beyond their understanding と表せる。「自ら」の訳出についてだが、「自分で」という意味で取れるため、(by) themselves などで表現できるであろう。

・「しかもそれは余分な不要物ではなく、はみ出たそこにこそ、芸術の力と生命とが宿っているように思われる。」

「しかも」の訳出にはさまざまな語が考えられるが、ここでは付加的な意味合いのニュアンスがあるため、moreover や besides などの表現を使うのが無難である。「余分な」は extra, 「不要物」は unnecessary / unneeded thing と表現できる。「はみ出たそこにこそ」は少々訳出しづらいが、「はみ出したもの」についてはすでに前文で表現されているため、あえてもう一度訳出する必要はなく、「こそ」の強調のために very 「まさにその」を補って the very part とすればよい。「宿っている」という表現は、「はみ出た部分に芸術の力と生命とが住んでいる」と考えて live / dwell in という動詞句を用いれば表現でき、解答例のようになる。

(ロ)

・「しかし、そう考えておしまいにしないで、」

「そう考えておしまいにしないで」という文だが、全文の構成と内容を考えると、これは「そう考えておしまいにするのではなく～」というニュアンスを含んでいることがわかる。「そう考えて」の「そう」は前文の内容を受けており、「その考えを受け入れる」というふう読み替えると訳出しやすくなる。また、「おしまいにする」についてだが、これは「その考えを受け入れることで思考を停止する、考えることをやめる」ということであることはわかるであろう。以上を踏まえると、解答例のようになる。instead は of とともに用い、instead doing のような形はとれないので注意が必要である。

・「もう一步踏み込んで、それでは『過去にあった事実』というものの正体は、いったい何か、と考えるみる。」

そうすると、これがなかなか簡単には決まらない。」

まずこの1文全体の構成に触れるが、これは読み手に対して教訓を述べているものであり、ある種啓発的なものである。また、2文目の冒頭の「そうすると」という日本語から、「命令文、and you'll～」という表現を思いつくかもしれない。これらの観点から、単に現在形を用いて訳を行うより、should を用いたり命令形を用いて表現したりするのがよい。解答例では should を用いた。

さて、まず1文目から解説する。「もう一步踏み込んで」の訳であるが、まず「一步踏み込む」が take one step で表現できることはわかるであろう。残る「もう一步」の部分が重要なのであるが、これは「さらなる一步、さらに遠くへの一步」と考え、further を用いて take one step further とすればよい。「過去にあった事実」とは、すなわち「過去の出来事」「過去に実際に起こったこと」と読み替えられるので、past events などで表現できる。「正体」については、あえて名詞で訳出する必要はなく、副詞 actually などを用いて、「過去の出来事が実際には何だったのか」という表現で代用できる。「いったい」という強調表現は決まった言い方があり、on earth や in the world がその例である。解答例では前者を用いた。なお、これらの表現は強調したい語句の直後に置くのが普通であり、この問いの場合には what の直後に置くのがよい。「考えるみる」についてだが、これはよくある表現であり、try to think とすればよい。なお、try thinking としてしまうと「試しに考える」となって実際



に行動した、行動しているというニュアンスが出てしまうが、これはあくまでも教訓であるため、まだ行動に移していない状態のほうが適しているといえる。ゆえにここでは適切でない。ちなみに、ここではあえて try to という表現を用いずそのまま think~としても文意は通るため、try to think と try thinking のどちらを使うべきか迷うようなら使わないほうが無難である。

次に 2 文目について解説する。「そうすると」の訳であるが、前述したように you'll~で表現できる。「これがなかなか簡単には決まらない」の訳についてだが、この文は you'll から始まるものであるため、you を主語にして文を構成する必要がある。この文は「簡単には決まらない、ということに気づくであろう」というニュアンスであるため、notice を用い、you'll notice that~とできる。「なかなか簡単には決まらない」の訳だが、これは「そんなに簡単には（過去の出来事の正体を）見い出せない」と読み替えられるので、that 以下は you can't find it out so easily. と表現できる。以上を踏まえて解答を作ると解答例のようになる。

(大西功泰, 日笠航希)